

脱炭素社会実現に向け、刈谷工場の水素燃焼実証試験開始 ～他工場への水素利活用推進への第一歩～

愛知製鋼株式会社（代表取締役社長：後藤尚英）は、カーボンニュートラル実現を目指す取り組みの一つとして、このたび刈谷工場の鋼材熱処理炉の水素燃焼対応工事を完了し、水素燃焼技術の実証試験を開始しました。

刈谷工場では、これまで地道な省エネ活動に加え、「再エネ電力」「カーボンニュートラル都市ガス※」の導入により、2022年3月に年間約1万2千トンのCO₂排出量を削減、カーボンニュートラルを実現しています。さらにクリーンエネルギーとして水素に着目し、東邦ガスグループとアイチセラテック株式会社の協力を通じて、都市ガスを使用する鋼材熱処理炉の水素燃焼対応工事を進めてきました。

今回の試験では、水素による鋼材熱処理技術の開発を目標とし、水素燃焼の検証や知見収集など、水素の利活用に向けた実証を継続的に進めていきます。また、中部圏水素協議会の一員として、これらの試験から得られた知見を活用し、他工場での水素利活用の展開も目指します。

今後も当社は、脱炭素社会実現を目指し、水素をはじめとするクリーンエネルギーの利用推進に取り組んでまいります。

※東邦ガス株式会社が提供する、天然ガスの採掘から燃焼に至るまでの工程で発生するCO₂を、森林保全プロジェクト等を通じて削減・吸収し相殺（カーボンオフセット）したLNG（液化天然ガス）で製造した都市ガス



水素燃焼実証試験を行う鋼材熱処理炉



水素貯蔵設備